

福津に伝わる むかしはなし

とんちの又ぜー

ずっとむかしのこと、福間に又ぜーという、馬で人や荷物を運ぶ仕事をしていた人がいました。ある朝、又ぜーは花見松原で庄屋を博多に送るため待っていました。そこへ、いたずら好きのお三ぎつねが、庄屋に化けてやってきました。しかし又ぜーは、影法師がきつねなのを見てすぐに気付き、逆にかかかってやろうと思いました。博多についた二人は、料理屋に入ってお酒や歌で大にぎわい。とうとうお三ぎつねは眠り込んでしまいました。又ぜーは「お金は庄屋さまがお払いになるから」と先に帰ってしまいました。翌日、料理屋の人たちが大いびきで寝ているお三ぎつねを見つけ、ひどくこらしめました。命からがら逃げ帰ったお三ぎつねが、子ぎつねに困まれてたいそう苦しんでいると、そこへ又ぜーがやってきて、「気の毒になあ、これは見舞いのまんじゅうだ」と菓へ投げ入れました。しかしお三ぎつねは、「又ぜーが持ってきたものなどは食べてはならん。馬のフンかもしれん」と子ぎつねに言い聞かせました。きつねが「人間にだまされるな」と気を付けたのは、後にも先にも又ぜーだけだったということです。



津屋崎民話劇団による上演 又ぜー

恋の浦物語

今から400年ほど前、津屋崎の庄屋である藤七は、京都の本願寺へ参る際に親しくなった、博多の廻船問屋である方屋新兵衛の息子仙吉と、自分の娘嘉代の結婚を約束しました。式を翌年に挙げることに、仙吉と嘉代も大変仲が良く、その日を待ち望んでいました。しかし、ある日、藤七の家に立ち寄った黒田長政の叔父黒田養心が嘉代を大変気に入って、奉公に出るよう命じました。殿様の命に背くこともできない二人は思い悩むしかありませんでした。

ある寒い冬の朝、京泊海岸の沖にだれも乗っていない一艘の小船が、波の間に間に漂っていました。小舟には「つやぎの岸に寄る波返へるとも恋の浦路は行く方もなし 仙吉 嘉代」としたためられた一枚の短冊が残されており、この句の一節がもともとなって恋の浦海岸と呼ばれるようになったといわれています。



津屋崎千軒

畦町宿場跡

市内の古い町並み

津屋崎千軒の古い町並みは、まちが山に面し、棟が縦横にあって「妻入」「平入」が混在し、「妻入」「切妻」が縦になっています。それが九州ならではの伝統の町並みです。造り酒屋なども残っていて、藍の家ともいって町並みをつくり出しています。福岡のほうでも畦町が宿場町の名残を残しています。「まこと」といって家の軒先に人を休ませる縁台のようなものも残っています。どこか華やかな感じがする津屋崎とは対照的に、こちらは落ち着いた感じがします。

こういった日常とは違う古い町並みに魅力を感じる人は少なくありません。どこにでもあるものならば人は来ないものです。残すべきものは「異文化」です。ただ、古いものを残すとすると維持が大変。ここでボランティアの協力が不可欠になってきます。ボランティアの力が文化財を育てるんです。ただ守るだけでなく、人が訪れ、活用しながら大事にしてほしいですね。



九州産業大学工学部建築学科教授 佐藤 正彦さん

金銅装頭椎大刀

宮地嶽神社



日本一のしめ縄

約1600年前、息長足比売命(神功皇后)が大陸に渡る前に当地で開運を祈願し、帰還後に建立したと伝えられ、息長足比売命と勝村・勝頼両大神がまつられています。神社には「地下の正倉院」とも呼ばれている宮地嶽古墳があり、出土した金銅装頭椎大刀は国宝となっています。拝殿正面にある長さ13.5メートル、重さ5トンの大しめ縄をはじめ、重さ1トンの大太鼓450キログラムの大鈴は、3つそろって日本一の大きさです。商売繁盛、開運勝利、災難除けの神社として、年間200万人もの参拝客が訪れています。



新原・奴山古墳群

まちに残る超一級の古墳群

福岡県の古墳群は、大和政権と大陸との交流を物語る役割を果たしています。とりわけ津屋崎の古墳群は超一級といわれていて、宮地嶽古墳の出土品は国宝となっています。すばらしいものです。これらは、福津市に広範囲に広がる宗像岩一族の墳墓群で、5世紀前半から7世紀前半まで約200年にわたる権力の象徴です。この宗像一族からは天武天皇の后が出ています。このことからこの地がいかに重要であったかがわかります。これらの貴重な古墳群を、自然景観と一緒に保存することが大事です。そして、保存だけでなく生涯学習の場として活用していきたいといけません。津屋崎小学校内に在自唐坊跡遺跡展示館ができましたが、大変良い試みです。子どもたちから歴史にふれることができる。故郷に対するアイデンティティを保てます。先祖が守ってきたものを今度は子孫に伝えていく義務があるんです。福津市には、そういった素晴らしい歴史遺産があるんだということを皆さんが認識して、そして五感を通して時代の鼓動を感じてほしいと思います。



九州大学名誉教授 津屋崎古墳群整備指導委員会 委員長 西谷 正さん



手光波切不動古墳

